

平成 29 年度 知多地域産業労働会議における主な発言要旨

日時：平成 29 年 8 月 30 日（水）午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで

場所：愛知県知多総合庁舎 3 階 大会議室

（ふるさと名物応援宣言・地域産業資源活用事業計画について）

- ・支援を行っている中小・小規模事業者はこういった情報を知る機会が少なく、国や県の支援機関へ相談に行く時間もないため、我々支援団体がしっかり情報を伝達し、先導的な事業を行うことで、中小・小規模事業者の地域産業資源活用に繋がればとよいと思う。
- ・ふるさと名物応援宣言について、常滑焼をメインとした形で、市、事業者、団体と歩調を合わせて、出来る限り早く実施したいと考えている。

（地域の取組状況について）

- ・地域の資源を活用した新しいビジネスモデルを作っていこうとする取組と、現在あるものを皆様に知っていただくとする取組を、知多半島の商工会議所、商工会、行政、金融機関の協力で行っているところであり、今日説明を受けた施策のいずれかに反映できたらと思う。
- ・5 年前から、地域産業資源であるハナモモを植えて観光資源（桃源郷）をつくる住民参加の事業を進めているが、地域産業資源の活用に対する助成を受けることは難しいため、県と地元自治体の緑化助成の補助金を受けている。
- ・本市では、地域ブランド化推進に関する会議を開催しており、会議での提案を具現化するため、現在は観光資源の調査をしており、10 月末の産業まつりに向けて、新たな土産品や特産品の試作を目指している。
- ・地域の特徴である、海水浴場に人が集まる仕組みを作らなければ、新規企業の開業はないと考え、すべてのことを見直すことから始めている。
- ・平成 22 年頃から、人口、事業所が減少していく中、流入人口増加のためには、観光産業の活性化が良いと考え、まつりの PR 事業を中心に支援してきた。
- ・しらすの水揚げ量が漁協単位で全国一、都道府県別でも全国 3 位以内に入っていることから、しらすのブランド化を地元自治体と一緒に進めている。
- ・昨年度、特産品の認定事業を行い、HP への掲載やパンフレットの作成を行ったものの、PR がうまくできていないので、PR について指導していただくと有難い。
- ・地場産業である醸造業の振興に、この 10 年特に力を入れている。行政、農業協同組合、商工会の三者連携で、耕作放棄地の有効活用として、地元産大豆の生産を進めている。
- ・農業協同組合の協力により、一般の方を対象に大豆栽培の講習会を開催し、地元産大豆の増産に努めている。
- ・知多半島 5 市 5 町の主な農畜産物はすべて取り扱っており、独自でブランド化したものも多い。今後も農畜産物を提供し、ブランド化に協力していく。
- ・組合の新しい共同加工場で生産された、高品質でロットの揃った海苔は、問屋組合から高い評価を受けているほか、アカモクという今までは邪魔者扱いされていた海藻が、NHK のテレビ番組で花粉症予防に効果があると取り上げられ、需要が伸びている。

- ・本市は江戸時代から醸造業で栄えた街であるため、「醸す（かもす）」というキーワードで、市内の商店にいろいろなメニューを作っていただく事業を展開している。
- ・地場産業である窯業の事業者数がかなり減って危機感を覚えており、輸出に対する支援や、常滑焼の良さを知っていただくためのワークショップの開催、飲食店や宿泊施設への常滑焼食器購入補助、PR事業等を展開している。
- ・昨年から農産物販路拡大を目的に、シンガポールの日本食見本市である「フードジャパン」において、地元農産物を加工したもの等のPRや商談等を行っている。
- ・本市は自動車産業が主要産業の一つであるものづくりの街であるが、次の経営の柱を立てていただけるように、商談会等の支援を行い、産業の活性化を進めている。
- ・産業振興のほか、昨年が観光元年ということで観光にも力を入れ、地域ブランドの確立に取り組んでいる。また、地域ブランドの確立のためには、広く市民へ周知することが大切だと考えており、メディアを活用してブランド意識の定着に取り組んでいる。
- ・昨年10月に、農業、漁業、商工、行政の関係団体による、ブランド化推進協議会を立ち上げ、観光協会、大学、企業、農家等の協力による料理の開発、販売を進めている。

（今後の取組及び課題）

- ・農業者や漁業者と連携を図り、六次産業化への支援をしていきたい。
- ・地域というものの捉え方を広く考えており、オール知多の中での応援事業を行っていきたい。
- ・地域産業資源の米を活用するためには、地元で生産された安心安全な食材を加工し、ブランドとして販売提供できるような、商品開発の仕組みづくりが必要である。
- ・地域産業資源を誘客の材料とし、観光協会の推奨品とも合わせて、街めぐりや特産品づくりのきっかけとし、活性化に繋げたい。
- ・中国の企業に西尾抹茶（NISHIO MATCHA）が商標登録申請され、西尾茶協同組合が異議申し立てを中国当局に行ったという事例がある。各地域産業資源についても、協同組合を組織化していただき、対外的なリスク管理を行うとよい。
- ・農業界と商工界には壁があると感じている。体力のある農業者は、自分で六次産業化を始めている。農商工連携のきっかけをどこに見付けていくかということに、課題を感じている。
- ・今後の六次産業化について、漁業者はあまり考えていないようだが、新たな加工商品があれば、町のブランド認定し、PR等支援していきたい。
- ・地域産業資源を活用して特産品を開発していく時には、知多半島道路のSAで売る、大手メーカーのお中元やお歳暮商品に入れてもらう等、必ず出口を見えるようにしておくことが大事である。
- ・来年の10月から12月まで、JRグループと愛知県が共同で大型観光キャンペーンを実施する。知多四国八十八ヶ所巡りが知多半島共通の宣伝素材として決まっていることから、お寺の説明だけでなく、お寺のある地域の宣伝も合わせて行えば、キーワードとして生きてくるのではないか。

（地域産業資源の内容の指定について）

- ・地域産業資源を軸に、町の観光が発展するような施策を考えていきたい。
- ・まずは地域産業資源の種類を増やそうと、商工会と連携して取り組んでいる。